

主体的な学習活動による道徳的实践力の育成

宮崎県宮崎市立国富小学校 教諭 水野 宗市

小学校3年 道徳 時々迷々（ときどきまよまよ）

番組の特徴

同年代の児童を主人公にだれの心の中にも潜む”迷う気持ち”をドラマ形式で描いている。主人公がさまざまな誘惑に直面し「道徳的」葛藤にさいなまれながら、悩み葛藤する場面を視聴することで、子どもたちはそこから何かを感じ、様々な思いをもつことができる。

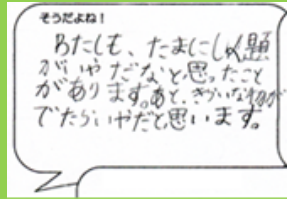
研究の概要

番組視聴を通して、自分が思ったことや感じたことを思考ツール（吹き出し）により道徳的实践力と関わるポイントを整理して話し合う授業デザインを計画し継続的に実践を進めた。意欲的に取り組み、児童一人一人が自分の思いや考えをもって学習を進めることができた。また、お互いの発表を認め、望ましい人間関係を築きながら道徳的实践力の育成につながった。

授業デザイン（1 単位授業時間）

主題：自分のことは自分でしよう（1ー（1））
めあて：自分でできることは自分でやり、よく考えて行動し、節度ある生活をする。

導入	主人公名・番組名（「もうひとりのぼく」）より、どんな内容かを考える。
番組視聴	第20話 もうひとりのぼく
全体交流	番組を見てそれぞれ感じたことを「そうだよね」（同調）「どうして」（疑問）「自由」の3つの視点で書きやすいところを選び、ワークシートに自由に書いて、発表する。
主発問	「本当に鏡の世界があったら行きますか。行きませんか。」
グループ →発表	自分の立場（「行く」「行かない」）を明確にしなが、理由を述べながら意見交換を行う。 行きたい。宿題が面倒なときがある！ 行かない。自分のことは自分でしないと
振り返り	今日の学習を振り返り、本時学習を「短い言葉」でまとめたり、思ったことや感じたことを書いたりする。



番組や関連動画クリップの活用意図

自分の思いや考えをもつための番組視聴

ドラマ形式により、「わかりやすさ・インパクト」があり、児童一人一人が主人公の気持ちや行動をもとに番組の内容をつかむことができ、自分の思いや考えを持つことができる。

自分の気持ちに置き換えて考える場の設定

番組のファンタジー的な要素により主人公の気持ちを客観的にとらえたり、主人公の葛藤場面を自身の体験と関連して考えたりすることで、感情移入ができ自分ならどうするかを考えることができる。

授業デザインにかかわる教師の工夫

番組への意欲を高め、番組に寄り添う準備

番組名より「今日の話はどんな話なのかな」という興味を抱き、主人公の名前を示すことでより具体的に番組を考え、学習意欲の向上につなげる。

思考ツール・吹き出しの活用

番組を見て児童が感じたことを「同調」「疑問」という視点により整理して発表することで、その後の話し合いの組み立てをする。児童の実態に応じて、「自由欄」も設け、各自の思いや考えがもてるようにして、積極的に学習に取り組めるようにする。

継続的な活用による児童の主体性の育成

番組を活用した授業を継続的に行うことで、児童が学習の進め方を覚えるとともに、番組の構成についても理解知ること、何をすべきかを考えて主体的に学習に取り組むことができるようにする。

生き生きと学ぶ子どもの姿

児童の反応

- 授業の中で、必ず1回は発表しようとしていた。
- お互いの考えを認めながら話し合い活動をしていた。

評価シートから（実践前後で有意差が見られた項目17項目中8項目）

- 楽しく学習することができた。
- 自分の考えや意見をしっかりと発表することができた。
- 学習を今後の生活に役立てようという気持ちになった。
- 自分自身の気持ちにあてはめて考えることができた。

同僚の評価

- 子どもが集中して取り組み、主人公の気持ちを考えやすい。
- 継続して活用しているので、学習の進め方に慣れていた。

実践を終えて〈行動宣言〉

「楽しく・一生懸命に学習に取り組むことができた」という項目で、有意差が見られた。毎時間の児童の様子を振り返って、児童は主体的に学習活動に関わったと考えられる。そのことが、「今後の生活に役立てようという気持ちになった」や「自分自身の気持ちに当てはめて考えることができた」の意識の向上につながった。今後も特別の教科「道徳」に向けて、学校放送番組の効果的な活用をしながら授業デザインの工夫を進めたい。